

# 潮干狩のできる干潟に 来年度実現の方向で

## 水産行政



田村剛一議員



町民へのアサリ漁場の開放が望まれます  
今年の「やまだアサリまつり」の様子

### 質問

河口付近の干潟が全国的に減少し、しかも、生態系破壊の心配も出ている。本町も同じ。そこで問う。

①外来種の貝により生態系の破壊が心配されると聞かすが、真相はどうか。その対策は。

②アサリ漁業権の設定により町民は干潟から追い出された。潮干狩のできる干潟に戻すことを望む。

### 沼崎町長

①昨年の「アサリまつり」の際にサキグロタマツメタという肉食性巻貝が採取され、その生息が確認された。これは、中国産

アサリに混じっていたもの。今年度から国産アサリを購入し全数を選別した。今年の「アサリまつり」の際、参加者に呼びかけ千個のサキグロタマツメタを駆除した。今後

も駆除に努めたい。

②平成十五年度、アサリに漁業権が設定され漁協正組合員以外の採取ができなくなつた。町民の要望もあり、漁業権管理委員会に漁場開放を依頼した。

開放に向け努力するとの回答を得ており、来年度から部分的に開放が実現するものと期待している。

## 町の考えを聞く

### 防災対策

# いのち第一の防災対策を 防災訓練のあり方の検討も

### 質問

町が実施した地震津波対策町民懇談会での住民反応と見えてきた防災上の課題は何か。また、防災教育で大切なことは、命を守ること。どのような防災教育が計画されているか。

### 沼崎町長

出席者からは防災意識の低下、自主防災組織の必要性が指摘・認識された。今後、防災意識の啓発、自主防災組織の結成促進に努めたい。

松尾教育長 各学校とも安全教育計画を作成し、火

事、地震、津波を想定した避難訓練、登下校指導を行っている。

### 質問

懇談会への参加者は何人か。現在のシヨリックな防災訓練を見直し、避難第一の防災訓練にすべきではないか。また、教職員への津波防災に関わる研修を実施したらどうか。

### 内館防災対策主幹

十地区で二百二十六人。防災訓練のあり方は検討したい。

### 松尾教育長

そのような方向で考えていきたい。



地震津波対策町民懇談会（田の浜地区）の様子。自主防災組織の結成が望まれます